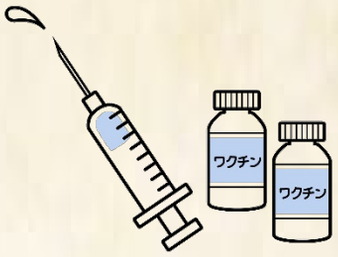
厚生労働省　造血幹細胞移植医療体制整備事業
令和8年度　　造血幹細胞移植推進拠点病院　四国ブロックセミナー



移植患者 ワクチン接種セミナー

9/17(木)
19:00～19:30
開催報告

参加者：25名

造血細胞移植後の患者さんを地域で支えるために、
開業医の先生方を対象にセミナーを開催しました。

造血細胞移植後の患者さんを地域で支えるために 移植の基礎知識から、感染症・ワクチン・長期フォロー・地域連携まで

愛媛県立中央病院　がんセンター長　血液内科　　名和 由一郎

造血細胞移植後は、免疫の再構築に時間を要するため、感染症やGVHDだけでなく、生活習慣病や骨・心血管疾患、二次がんなど、長期にわたってさまざまな健康課題が生じます。また、移植後の患者さんのワクチン接種においては、移植からの経過年数だけでなく、GVHDの有無や免疫抑制薬の使用状況などを確認することが重要であることをお伝えしました。さらに、発熱や呼吸困難、皮疹・下痢など、移植後患者さん特有のリスクを考慮した対応や、ワクチン接種の際に移植施設へ確認するポイントについて、具体的な事例を交えてお話ししました。

造血細胞移植後のワクチン接種

市立宇和島病院　血液内科　　鹿田 久治先生

造血細胞移植後は、移植前に獲得した免疫が低下・消失するため、感染症予防としてワクチン接種が重要となります。今回の講演では、移植施設から地域の医療機関へワクチン接種を依頼し、連携して患者を支える取り組みが紹介されました。移植後の経過やGVHD、免疫抑制剤の使用状況などを踏まえた接種時期の判断や、接種計画について説明されました。
また、2症例を通して、地域で継続して接種することの意義と課題が示されました。接種を完了できた症例がある一方、ワクチンの必要性への理解や費用面の問題から、接種が中断された症例も紹介されました。
ワクチン接種をきっかけに、患者・移植施設・地域の医療機関がつながり、移植後の長期的な支援を地域全体で考えることの重要性を改めて感じました。

移植施設と地域の医療機関がそれぞれの役割を担い、必要な時に相談・紹介できる関係を築くことは、患者さんが住み慣れた地域で安心して生活を続けるために重要です。今回のセミナーが、移植後患者さんへの理解を深め、地域で支えるための連携を考えるきっかけとなることを願っています。

造血幹細胞移植推進拠点病院
愛媛県立中央病院